

## 障害者フライングディスク競技規則

障害者フライングディスク競技は、日本障害者フライングディスク連盟競技規則・全国障害者スポーツ大会競技規則に基づいて行う。

### ○ 競技種目

アキュラシー競技(年齢別・距離別)

ディスリート・ファイブ(5 m)

ディスリート・セブン(7 m)

ディスタンス競技(男女別・立位、座位別・年齢別) 競技区分は、以下のとおり

座位女子(レディース・シティング)

座位男子(メンズ・シティング)

立位女子(レディース・スタンディング)

立位男子(メンズ・スタンディング)

### ○ ディスク

日本障害者フライングディスク連盟のファーストバックモデル(直径 23.5 cm、重量 100 ± 5 g)を使用する。

#### アキュラシー競技

アキュラシーゴールは内径 91.5cm の円形、パイプの径は 2.5cm とし、アキュラシーゴールの前面がスローイングラインと平行で外形の最下部が 61cm になるようにする。ゴールの設置は、追い風を基本とする。

プレイヤーは 10 回連続して試技を行い、得点はディスクが地面に触れずに直接、アキュラシーゴールを通過した回数とする。

プレイヤーが視覚障害者の場合、競技役員がアキュラシーゴール後方 3 m の距離から何らかの音源で知らせることができる。

順位の決定について

順位は、得点の多さで決定する。

同得点の場合は、第 1 得点を先に挙げた者を上位とする。第 1 得点と同じ場合は、順次、得点を先に挙げた者を上位とする。

の方法によって 1 位、2 位、3 位が決定しない場合は、1 セット(3 投)の再投(追加試技)を行い得点の多さで順位を決定する。ただし、4 位以下の者で同得点の場合は、再投は行わず、同順位とする。

の方法によって再投を行った結果、同得点となり 1 位、2 位、3 位が決定しない場合は、の方法によって順位を決定する。

再投は、順位が決定するまで、最大 5 セットまで行う。

の方法によっても順位が決定しない場合は、同順位とする。

試技の時間は、プレーヤーが1投目のディスクを受け取ってから5分とする。5分をこえた試技は無効とする。

プレーヤーがスローイングラインの前面を除く上部に触れるか、踏みこえたときには無効とする。

車椅子または椅子の設置面がスローイングラインの上部または外側の地面に触れるか、踏みこえたときには無効とする。フットレストがスローイングライン上の空間に出るのは認める。

無効となったスローイングは、1回の試技とみなされる。

## ディスタンス競技

スローイングエリアは、スローイングラインとエンドラインを結ぶ四角形（160cm～180cm）の範囲内とし、プレーヤーはこのエリア内でスローイングしなければならない。

プレーヤーは1回の練習（ディスクは競技用と同規格で黄色）と3回の試技を行う。記録は3回の試技で、最も距離の遠い着地点を計測する。

順位の決定について

同記録の場合、1位、2位、3位は1投の追加試技により決定する。追加試技は、順位が決定するまで行う。

4位以下の者が同記録の場合は、追加試技は行わず同順位とする。追加試技の記録は公式記録としない。

試技の時間は、プレーヤーが1投目のディスクを受け取ってから3分とする。3分をこえた試技は無効とする。

距離の計測は、足留材の中央の計測点からディスクが最初に地面に触れた点までとし、有効範囲は競技フィールド内とする。

計測はcm単位とし、1cm未満は切り捨てる。

座位で競技する場合のシートの高さは、クッションを含め75cm以下とする。

スローイングに関する反則は、アキュラシー競技と同様に扱う。